

音楽があると人生は楽しい。

音遊人

みゆーじん

2017
Autumn

特集
聴くは楽しい!



“聴く”は楽しい!

Record

レコードに欠かせない 高品質の針

昨今、再びレコード人気が高まっている。レコードを現在でも快適に聴くことができるのは、日本のレコードを愛する一企業の存在が大きい。それは世界中から支持されるレコード針メーカー、株式会社ナガオカである。

text by Ryuichi Yamazaki



2年ほど前から、日本のみならず世界中で本格的なブームがやってきて、針の生産は月産20万本を目指していたのですが、現在は25万本ほどに増えています」

こう語るのは、株式会社ナガオカの社長、長岡香江さん。人工ダイヤモンドを針先に使用したナガオカのレコード針は、世界トップクラスのクオリティを誇り、世界の名だたるメーカーに採用されている。

「針の先端部分は、人工ダイヤモンドをチタンに接合させているのですが、その接合技術は弊社だけのものです。針全体を天然ダイヤモンドにすると、コストが高くなってしまいます」

その高い技術を持つ所以は、創業時にまでさかのぼる。

1940年に創業したナガオカは、もとは腕時計に使用される軸受石を製造し、メーカーに卸していた。高級時計の軸受石には、ルビーやサファイヤなどの

の宝石が使われる。つまり、ナガオカは宝石の加工を生業としていたのである。レコード針を生産するきっかけは終戦直後、進駐軍から「宝石を使った耐久性のあるレコード針がほしい」とリ

クエストされたことだった。

「当時の針は鉄や竹でできていて、1回使うと取り替えなければならなかったといえます。弊社は1947年にサファイヤ針の製作に成功し、その結果、寿命が約15時間に延びました。56年には人工ダイヤモンドを使った針を開発し、200～300時間ほど

耐えられるようになったんです」

80年代には月産100万本を超え、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いであったが、そんなときにCDが登場。次第にレコードに取って代わっていき、レコード針の生産も減少の一途をたどっていった。そして、このときナガオカのとった対応が、結果として現在の隆盛につながることになる。

「90年に黒字のまま一度会社を解散したんです。

都内にあった工場も売却して社員の退職金を払い、再就職先の斡旋もしました。しかし、レコード針を作る機械は残して、山形にあった関連会社の工場に移し、生産を続けることにしたんです」

実際、レコード針の事業は赤字だったが、測定器端子や半導体の検査装置部品をはじめ製品の多角化を進めることでカバーした。「もしレコード針の生産を止めていたら、再び参入することはできなかったでしょう」と長岡さん。「創業者をはじめ、歴代の社長はレコードが大好きだったんです。だからレコード針の生産はどうしても続けなければ、と考えたようです」

ナガオカの針で現在もレコードを楽しめるのは、当時の経営者のレコードへの愛情があったからこそ、なのである。

レコード針は株式会社ナガオカの山形本社で作られる。最近レコード針のみならず、ヘッドホンやイヤホンなどの生産にも力を入れる。左の写真はミュンヘンで行われたハイエンドHiFiオーディオ・ショーにて、社長の長岡香江さん(中央)。株式会社ナガオカ <http://www.nagaoka.co.jp>

